

主 題：あなたへの祝福を忘れない5—罪の力に対する勝利—
聖書箇所：ローマ人への手紙 6章18節

この数週間にわたって、私たちクリスチャンは勝利者であるということを学んできました。もう既に私たちはこの世に対して勝利を得た「世に対する勝利者」であり、また死に対しても勝利を得た「死に対する勝利者」であると、神は私たちに大切な真理を教えてくださいました。また神は、みことばを通して、実はあなたは「罪に対する勝利者」でもあると教えてくださいました。

さて、皆さんが「あなたは罪のさばきから解放されました。あなたは罪のさばきに対する勝利者ですか？」と問われたら、あなたは何と答えますか？あなたが信仰者であるならば、救いにあずかっているならば、間違いなく「はいそうです。私は罪のさばきから救い出されました」とお答えになるはずで、なぜなら聖書のヨハネ5：24に「わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、」とあるように、神のメッセージははっきりと私たちに、我々はさばきに会うことが決してないと教えているからです。またローマ8：1にも「キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」と記されています。もうあなたが、赦された者が罪に定められることは絶対にないことばは約束しています。ですから、我々信仰者というのは罪のさばきから完全に永遠に解放された者たちであると言えます。

では、この質問はどうでしょう？「あなたは確かに罪のさばきから解放された、罪のさばきに勝利した者である。でもあなたは罪の力に対する勝利者ですか？」と問われたらどうですか？日々誘惑する罪の力に勝利することのできる者であるかと問われたとしたら、先ほどのように「はい」と答えるには少し躊躇してしまいませんか？恐らくそれは日々訪れる罪の誘惑に対して、繰り返し敗北を喫しているからではありませんか？確かに私たちの日々の経験は、私たちにそのような躊躇をもたらします。でも私たちが立つべき所は神のおことばです、神は、キリスト者であるあなたは、救いに与ったあなたは罪のさばきだけではない、罪の力に対しても勝利を得た者であると教えています。繰り返します、信仰者であるあなたは罪の力に対しても勝利を得た者たちであると神は私たちに教えてくださいました。

今日のテキスト、ローマ6：18でパウロは「罪から解放されて、義の奴隷となったのです。」と言っています。この「解放されて」ということばは、罪の支配や罪の力から解放されたということです。これまであなたを支配してきた罪の力からあなたは解放されたということです。そしてあなたは「義の奴隷となった」のだと。この「解放され」た、「奴隷となった」のどちらの動詞も受け身です。つまりパウロはこの2つは神がなしてくださるみわざであることを教えています。私たちがどんなに頑張ろうと、一生懸命努力をしても、私たちにできないのです。だから私たちはこの救いに関して神だけに感謝を捧げるのです。なぜなら神が我々を支配してきた罪の支配から解放してくださり、そして罪の奴隷であり、サタンに奴隷であった私たちをそこから解放して神の奴隷、義の奴隷としてくださったからです。このすべてが神のみわざであるから私たちはこの神に感謝を捧げ続けるのです。罪の支配から解放された、罪の奴隷でなくなったから、好きなように生きても良いということではありません。罪の束縛から解放された私たちは、私たちに造ってくださり、私たちに愛してくださり、救ってくださったこの神の栄光の為に生きる、そのためだけに生きるという、本来の生き方を始めたのです。

同じローマ6：14に「というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の下にはなく、恵みの下にあるからです。」と記されています。この「支配」ということばも「主人」とか「支配権を有する」、「何々の上に支配権を行使する」という意味を持ったことばが使われています。つまり、罪はかつて私たちの主人であり、我々を支配する権利を有していて、実際にその支配権を行使していた。だから我々は罪しか行えなかったのです。神を喜ばせることはできなかった。しかし、このみことばは「罪はあなたがたを支配することがない」と言っています、もうこのかつての主人である罪は我々の主人ではなくなったのです。我々が服従してきたこの主人である罪は、もう我々の主人でなくなった。パウロは14節でもそのことを教えています。

もう一つ、コロサイ3：10でパウロは「新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。」と記しています。注目していただきたいのは「新しくされ」という動詞です。これは質において、クオリティの話です。つまりパウロは救いにあずかるということは、救われる前とは全く異なる者へと変えられることだと教えているのです。皆さんは救いに与

った時に、新しい願いを持って生きる人へと変えられたはずです。これまでは自分をどう喜ばせようか、そのことだけを考えて生きてきました。自分の肉をどう満たして、どう自分が喜べるか、そんなことしか考えていなかった。でも救いに与った私たちは、その時からどう神様を喜ばせたら良いのか、どのように生きる事が神を喜ばせる事なのか、そのような新しい願いを持つ者へと変えられたはずです。また新しい目的を持って生きる者へと変えられました。これまでは人々の前で自分をどう示していくのか、自分の成功をどう人々の前に公にしていくのか、自分の事しか考えていなかった私たちが、どうしたら神の栄光を現す事が出来るのだろう、そしてそのために神のみこころを行っていきたくてという新しい生きる目的を持って生きる者へと変えられた。また価値観も変えられました。物の見方が変わりました。今まではこの地上の事だけに目を留めていました。救いに与った私たちは地上の事よりも、その先、永遠のことに目を留めて生きる者になりました。人間がどう評価するかではなく、神がどう評価されるのかを考える者へと私たちは生まれ変わったのです。しかも新しい特徴を持つ者として生まれ変わったのです。どんな特徴かという、我々をイエス・キリストに似た者に変えていくという特徴です。

「造り主のかたちに似せられてますます新しくされ」る。この「新しくされる」という動詞は現在形が使われています、継続して私たちは変えられていくということです、救いにあずかった者たちはその瞬間から日々変えられ続けていくのです。しかもこの動詞は受け身で書かれていて、神のみわざだということをはっきりさせるのです。

このみことばを見ていくと、救いというものは新しく全く生まれ変わるものであり、新しく造りかえられるものであり、これまで私たちを支配し、我々を捕えていた罪という、どうする事も出来なかった力に勝利する者へと変えられたのだということにお気づきになると思います。それが私たちの聖書が我々に教えてくれている事です。クリスチャンであれば、救いにあずかっているならば、新しく生まれ変わったのであれば、あなたは罪の力に勝利する者として生まれ変わったのだと言えるのです。これが救いなのです、これが神が私達に下さった救いなのです。でも正直なところ、自分の生活や過去を見ると、自分は勝利者として生きているかと言われたら、なかなか「はい」と言えません。恐らくそういう信仰者が沢山おられると思います。

☆ 罪に勝利する方法

私たちが今から見ていくことは罪に対する勝利者として生きるためにはどうしたら良いのかです。我々はそれを一番知りたいはずです。勝利者だと言われても自分の歩みを見たらどうも勝利者らしく生きていない。どうしたら神が言われたように、この罪の力に勝利しながら我々は生きていくことが出来るのか、そのことについて一緒にみことばを学んでいきます。

A. 「神のことばを信じること」

まず我々が最初に知るべきことは、神のことばを信じることです。あなたが罪に対する勝利者として生きていくために必要なことは、あなたが神のことばをしっかりと信じることです。なぜそんなことを強調しているかという、私たちの敵であるサタンは間違いなくあなたに疑いをもたらします。神のことばを疑うようにと働きます。それは人類の創造の初めからサタンが繰り返してきたことです。「彼は偽り者であり」、「偽りの父である」とイエス様がヨハネ8：44で言われたとおりです。ですから私たちは敵の策略を知ることが必要です。どんなふうに攻撃してくるのか、どんなふうにあなたの信仰をアタックするのか、そのことを我々は知ることが必要です。それによって我々はどう聖書的に対処すれば良いのかを知ることが出来ます。

1. 敵の策略

1) 神のことばを疑わせる

(1) その目的と方法

お話したようにサタンは神のおことばを疑うようにとあなたの心に働いていきます。神は私たちに、あなたは勝利者であり、勝利することが出来ると言います。あなたはこうして神のみことばに従うことが出来るのだと。そしてあなたは罪に打ち勝つことが出来る。神は「出来る」と言われた。でもサタンは私たちのうちに働いて、罪に勝利することなんか出来ないとあなたに信じ込ませるのです。罪に勝利することは私にはできません。「出来る」と言う神に対してそれを疑って、私にはそれが無理なのだあなたが信じるようにあなたの心に働くのです。確かに神様はそう言われるけれども自分には出来ない。

なぜサタンがあなたや私がみことばを実践することを阻止しようとするのか、あなたがみことばに従って行くことを妨害しようとする理由は、もしあなたがみことばを実践したら、みことばに従ったら間違いなくあなたは変わるからです。そしてあなたを通して神の栄光が現れるからです。サタンは何とか

してそれを阻止したいのです。ここにおられる皆さんがそれぞれのところで神の栄光を現したら、これは厄介なことになります。そのためにサタンはまず、たとえ神が言われたことでもあなたがそれに対して疑いを抱くように働くのです。ひょっとしたらあなたは「神様が何と言われても自分にはそれは無理です」と思っておられるかもしれない。また神が「出来る」と言われたら、「そうだ。私は出来るのだ。」と思っておられる方もおられるでしょう。サタンはそういう人にも働くのです。神が言われても「出来ない」、神のことばを疑うように働くだけでない、「出来る」と信じている人にも働いて、このように誘惑します。それは自分の努力で出来るのだと思わせるのです。ひょっとしたらサタンはこんなふうにささやくかもしれない。あなたはこれまで何でも自分で考え、それを実行し、やることなすことに成功を得てきた。だからこの神の命令に対しても、あなたは頑張ったら出来る、あなたにはそれが可能であると。そのようなサタンの声を聞かなくても、自分の力に自信を持っている人はそういう傾向があります。神が言われたことに対して「じゃ、努力してみましょ、やってみましょ、頑張ってみましょ。」と。

自分の力で神のみことばに従おうとした人たちが共通して言うことは何かというと、「頑張ったけど出来なかった。一生懸命やったけど出来ずに失敗した」と。出来ると思っただけが出来なかった場合、失敗した時にサタンはそこで終わるのかということ終わらないのです。みことばの実践に失敗するとサタンは掌を返したようにその失敗を叱責し始めるのです。そしてあなたに自責の念を抱かせるように働きます。例えば「おまえはこんなことも出来ない弱い存在だ。おまえのような存在が神の栄光を現すことも、神に喜ばれる生活をすることも不可能なのだ。」と言ってあなたを責め始めます。「こんなことも出来ないのか、なぜそんな弱い罪深いおまえが神の栄光を現すことが出来るのだ。どうしておまえが神に喜ばれる生活をする事が出来るというのだ。神の命令に従っていないではないか、守れていないではないか。」と。私たちは知らなければいけないのです。我々は自分の意志や自分の力や自分の努力によって罪に勝利することは絶対に出来ないほど弱い存在だということをです。イエス様は「心は燃えていても、肉体は弱い」（マタイ26：41）と言われた。その通りではありませんか。本当に神様に仕えたいという思いは持っているけれども、実際の歩みを見た時に、我々は何回も何回も罪に白旗を掲げてきたのです。サタンはいろいろな形で誘惑をします。あなたができないという思いを抱きながらずーっと何もしないでいてくれるように、みことばに対して疑いを持つように。また何かをしようと思うのであれば、自分の力で頑張るように働き続けます。そして自分の力を過信した者たち、自信家の人たちが失敗した時に、自責の念を抱かせて「私は信仰者として失格だ。私は神を喜ばせることなんかできない。」と。こういう信仰者は大変消極的なクリスチャン達です。

（2）その対処法：みことばに立つ

私たちがどういうふうに対処すべきかということ、みことばに立つことです。果してみことばはどんなふう私たちに教えてくれているのか——。パウロは私たちと違ってすべての点を完璧にこなしたのか、すべての点において完璧な存在だったのかと言うと、皆さんご存じのように彼も私たちと同じように罪との戦いに敗北を喫した者です。「自分のしていることがわかりません。」（ローマ7：15）と言ったのはパウロです。神を喜ばせたいと願っているがそれと全く違うことをやっていると言ったのは彼です。「私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。」（ローマ7：24）、そう言ったのはパウロです。彼も私たちと同じように罪との葛藤を経験し、罪に対する敗北を繰り返してきたのです。

でも、そのパウロが罪の力に勝利した者として生きたのです。その秘訣を彼は教えてくれています。Iテモテ1：12「私は、私を強くしてくださる私たちの主キリスト・イエスに感謝をささげています。なぜなら、キリストは、私をこの務めに任命して、私を忠実な者と認めてくださったからです。」。まず「私をこの務めに任命して」とあります。数ある務めの中で少なくともパウロには福音宣教という務めが与えられました。彼はいろいろな所に出て行って福音を語るという務めが与えられた。でも福音宣教は私たち信仰者みんなに与えられている務めです。全世界に出て行って福音を語れというのは、パウロだけに与えられたものではない、ある特定の人々だけに与えられたものではありません。我々信仰者はみな置かれている所で機会を用いて福音を語り続けていく、それは神の大命令です。パウロは「任命して」ということばを使っています。この動詞が表していることは、恐らくパウロは救いに与ったときにこの務めを神様から頂いたのだと教えます。

その後「キリストは、私をこの務めに任命して、私を忠実な者と認めてくださったからです」と書いてあります。「忠実な者」というのは、「信頼できる」とか「期待通りである」、「当てになる」ということです。誰にとって「忠実な者」、誰にとって信頼できる者、誰にとって当てになる者とパウロは言っ

いるかという、ここにあるように「キリスト」にとって、つまりイエス様がパウロを見た時に、このパウロという人物はわたしにとって信頼できる人物だ、当てに出来る人物だと言われたとパウロは言っています。パウロの自慢をここに記したのでしょうか？いいえ、そうではありません。もう一度12節を見ると「私は、私を強くしてくださる私たちの主キリスト・イエスに感謝をささげています。なぜなら、」と記されています。今言ったように、キリストがパウロを見てわたしの信頼できる存在ですと言ったのは、パウロ自身がキリストの力によって生きていたからです。「私を強くしてくださる私たちの主キリスト・イエスに感謝」をしている。なぜならパウロはこの力によって、この方によって私はこのような歩みが出来ているからだと教えるのです。「私を強くしてくださる」、神様の助けの話です、救われた者にふさわしく生きるための力、クリスチャンとしてそれにふさわしく生きていくための力は神が備えてくれると。

Ⅱコリント9：8でパウロが同じことを教えます。「神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ちたりて、すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方です。」、この「恵み」ということばを「力」に置き換えてみてください。パウロは、「すべての良いわざにあふれる者とするために、あらゆる『力』をあふれるばかり与えることのできる方」、それが出来るお方は神だと言っているのです。パウロが教えてくれるのは、パウロの信仰生活を神がご覧になる時に、信頼できる人物だ、信頼できる信仰者、当てになる信仰者だ、わたしが喜ぶ信仰者だと。なぜそのような信仰者としてパウロが生きることが出来たのかという、神の力によってそれが出来ているとパウロは教えているのです。神がそのように生きていくための力を常に与えて下さる、しかも、神は出し惜しみをしているのではない。「あらゆる恵みをあふれるばかり与えることのできる方」だと。だからパウロはピリピ4：13で「私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。」と言ったのです。パウロの教えていることは明白です。彼の力は自分のうちにはなかった。彼の力は神にあったのです。我々が罪に勝利しようとする時に覚えなければいけないことは、その力は私たちのうちにはないのです。でも、神のうちにはあるのです。そしてパウロが教えてくれたように、その力が私たちには与えられ続けていくのです。どんなにサタンが惑わして神のおことばを疑うように働いたとしても、我々がすべきことは神のことばに立つことです。

あのエデンの園でも同じことが起こりました、なぜエバもアダムも神のことばに立たなかったのかです。神が何と言われたのか、そこに立つべきでした。今の私達にはこうした完成した神の啓示、神のメッセージがあります、ここに立つことです。神が何と言われているのか、そこに立つことが必要なのです。敵の策略の一つは神のことばを疑うようにと働きます。時代を超えて、場所を超えて、サタンは常にそのような働きをなします。

2) 神のことばを信じさせない

二つ目のサタンの策略は、神のおことばを信じさせないように、あなたが信じないようにと働くのです。サタンがあなたを誘惑し、そしてあなたが罪を犯す、そこで攻撃が終わってしまうのではなく、その後も継続するのです。様々な形で、神のことばを疑うように、言われたことを信じないように。神が言われたことを間違っって受け止めて、間違っってそれに応答していくように惑わします。そしてその結果、罪を犯したあなたをサタンは放っておきません。まだ働き続けるのです。疑うだけでなく今度は信じないようにと働いていくのです。

皆さんに大切な質問をします。考えてください。主イエスを信じた時に頂いた罪の赦しは、あなたの一部の罪に対してだけなのか、それともあなたのすべての罪に対してのものなのか、どちらですか？神があなたに与えてくださった救いはすべてです！イエス様が私たちに与えて下さった救いというのは、過去のすべての罪も現在のすべての罪も未来のすべての罪も、それを赦して下さった。「すべてを赦してくださる」とは、過去も現在も未来もすべての罪を赦して下さったということです。イザヤ43：25でみことばは「わたし、このわたしは、わたし自身のためにあなたのそむきの罪をぬぐい去り、もうあなたの罪を思い出さない。」と言っています。すごい約束だと思いませんか？感謝なことに神はあなたに「あなたの罪を思い出さない」と言っておられるのです。エレミヤ31：34では「わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思い出さないからだ。」と。神様はこんな約束を下されたのです。罪の赦しをいただくというのはそういうことです。なぜなら神がもう「あなたの罪を思い出さない」、「二度と思い出さない」、解決済！と言われたのです。

詩編103：12では「東が西から遠く離れているように、私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される。」、つまりもう思い出さないということです。東と西は絶対に出会わないからです。神はもうすべてのものをぬぐい去って下さった。先ほどお読みしたローマ8：1では「今は、キリスト・イエスにあ

る者が罪に定められることは」、ひょっとしたらあるかもしれませんがなくて、「決してありません。」です。

2. 罪悪感

罪の問題は解決したのです、罪は完全に永遠に赦されたのです、過去のすべての罪も、現在のすべての罪も、そして未来のすべての罪も全部赦された。アーメンでしょう、皆さん。これが赦しです。これがみことばが教えている神の救いなのです。そのことは信仰者であればちゃんと分かっておられる。でもそのことを分かっていながら、残念ながら罪悪感を持って生きているクリスチャンたちが多いのも事実なのです。「自分は悪いことをした。自分は非難されることをした、そういったことを犯してしまった。」そういう気持ちをずーっと持っているのです。もちろん理由はあるでしょう。大変大きな罪を犯した、また同じ罪を何度も犯して完全に勝利できていない。また人に大きな迷惑や悲しみをもたらした記憶が消えることがない。そうすると私たち人間って罪悪感を抱いてしまう。

私たちがどうして罪悪感を持つのかというと、その一つは、自分で自分の犯した罪に対してその罪にふさわしい報い、懲罰を与えてその罰を科すのです。「こんなひどいことをしたおまえに対してこれがおまえに対する懲罰である。」、このような罪悪感を抱いている多くのクリスチャンたちというのは、ある人は大変消極的です。またある人は自虐的な人もいます。先程も触れたように、こういうクリスチャンは実際にいるのです、「自分はダメな信仰者だ、私のようなものは神のお役に立てない。神に仕える資格は自分にはない。」そう自分に言いきかせて信仰生活においてまた奉仕においてもすべてにおいて大変消極的なクリスチャン達があります。また自分自身に「おまえはこれこれのことをしたのだから、神の民の交わりに入る資格もないし、神の祝福に与ることなどおこがましい。」、そのようにみずから言い続けている人たちもいます。また「おまえなど一生苦しんで罪の償いをし続けろ。おまえなんて死んでしまった方がいいよ。」と。クリスチャンでありながら、こうして自分を責めて、自分を苦しめて、自分を赦さないクリスチャンたちがいるのです。

そこで考えないといけないのは、先ほど私たちが見たように、神の赦しとはどんなものだったのかです。神の赦しには、すべての罪が含まれていたのではないのかです。イエス・キリストを信じた時に赦されたのはその時までの罪ではなく、それから先の罪もすべて含まれていました。ということは、それが大変大きな罪かもしれないけれども、イエス・キリストはその罪のために十字架で死んでくださった。そしてその救いに与った時に、その全ての罪が赦された。それが神の赦しではないのかです。確かに罪は多くの悲しい結果をもたらすことを我々は知っています。罪によって家庭とか人間関係が崩壊したケースも沢山知っています。罪によってもたらされた結果を受け入れなければならないでしょう。しかし、だからと言ってその信仰者が罪悪感を持ち続けて自分を苦しめ続けることが果して神が望んでおられることかどうかです。主が望んでおられることは、罪を赦していただいた者としてその恵みを感謝し、主の栄光のためにみことばに忠実に従い続けていくこと、そしてその神の栄光を現し続けていくことではないですか？

もし罪悪感を持つことで罪に対する正しい対処を取っている、責任を取っていると思っているのなら、それはただの自己満足でしかないということを覚えてください。神はそんなことを喜ばれないのです。あなたの肉は喜ぶのです。そしてあなたがしていることは神の赦しが不完全であると言っているのです。神の赦しは完全なのです、神の赦しにはすべての罪が含まれているのです。あなたはイエス・キリストを信じて罪が赦されたのです。すべての罪がそこには含まれている。だからあなたは自分を責め続けることをやめなければならない。正しくないことです。聖書的ではないのです。あなたにできる事は、こんな罪人の私を赦してくださった、その神の素晴らしさを称え続けること、その神の素晴らしさを伝え続けていくことです。

また、こういうケースもあるでしょう。罪悪感を持つのは自分自身からその選択をして罪悪感を持つだけでない。人から罪悪感を持つように責められている人もいるでしょう。もしそういうケースがあるとしたら、それはあなたの怒りの行為であるということを責めている人は覚えなさいといけません。怒りを持っているならば、つまり罪を持っているならば正しい選択は出来ません。主イエス様がどうして1万タラントもの自分の借金を免除されたいながら自分が百デナリを貸した仲間を赦さなかった例えを話したのか。ある一人の人物が王様から1万タラントの借金を免除してもらった。赦された後、出て行った彼は自分の仲間を一人見つけるのです。その人物に彼は百デナリ、自分が借金していたものの六十分の一です。その仲間は「赦してくれ」と言いました、でも彼は赦さなかった。イエス様はその話をなさいました。なぜイエス様がこんな話をされたのかを思い出してください。それはペテロがある質問をイエス様にしました。マタイ18：21-23「『主よ。兄弟が私に対して罪を犯したばあい、何度まで赦

すべきでしょうか。七度まででしょうか。』イエスは言われた。『七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍するまでと言います。このことから、天の御国は、地上の王にたとえることができます。王はそのしもべたちと清算をしたいと思った。』と言ってこの例えが続くのです。私たちは主によって赦された者たちです。我々が覚えるべきことは人が私に何をやるかではない、私が神に何をしてきたかです。我々信仰者が世に示すことができるのは、私たちの神は心から罪を悔い改めて赦しを求める時に赦しを下さる神なのです。そしてその赦しを頂いたのがあなたです。あなたは本当に自分が罪人の中で最も罪深い存在だということを知っていますか？そんな罪人のかしらを赦してくれたのです。丁度この1万タラントの借金を負っている人物と同じように。そのことが分かっている人は赦すのです、赦された者として。

サタンは様々な形で働きます。サタンは一人ひとりが罪に対する自分の解決方法を選択し、神の言葉を信じさせないようにと働いていくのです、罪悪感を持つことによって自分の罪の精算を私はしているかと思っているかもしれない。それはイエス・キリストの十字架はすべての罪を完全に赦すことが出来なかったと言っているのです。こんなことをしたのだから、こんなことをして私を苦しめたのだからもっとあなたは苦しむべきだ。これも正しくないことがわかりでしょう。私たちは主イエス・キリストによってすべての罪を赦していただいたのです。もし罪悪感を持っている人がいるならば、それが正しくない選択だということを知ってください。あなたは声を大にして言うべきです「私は罪人のかしらだ。その言葉以上に罪深い存在だ。でも主は私を赦してください私を生まれ変わらせてください、すべての罪を二度と思い出さないと教えてください」と。こんな凄い神様の恵みを伝える者としてあなたが生かされていることを覚えることです。そしてみんな罪が赦された者としてその素晴らしい神様の栄光を現すために生きることです。信仰者の皆さん、我々一人ひとりの目を神様に向けることです。我々が見るのは周りの人たちではない、神です。その神の目に写っている自分の姿は最悪の罪人の姿です。まだ私たちが気付いていない罪深い存在であることを神はご覧になっていて、その上でなおも赦してくださいました。それが我々のメッセージです。サタンは巧妙に私たちのうちに働き、罪悪感を持ち続けながら生きる信仰者にそのように歩み続けるようにと。そうやっていくと神が何と言われてもそれを受け入れようとしない。自己満足で終わってはいけないのです。神に目を向けなければいけない。

3. 告白

又もう一つ言えるのは、あなたが罪を犯したらあなたはそれにどう対処しますか？罪を犯したらあなたは罪を告白するのでしょうか？Iヨハネ1：9に「自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」とあります。聖書は私たちにあなたが犯した罪に対し告白をしなさいと教えています。しかし、「神様、ごめんなさい。昨日あんなことをしてごめんなさい。一昨日あんなことをしてごめんなさい。」と、我々はずっと言い続けるのですか？今私たちが見た聖書の箇所到我々は何回それをしないといけないとは書いてありません。私たちは罪を犯したら神の前にそれを告白するのです。告白するということは神様と同意するということ。それをご覧になっておられる神、その動機も知っている神、その神の前に言い訳をしないということ。皆さんは罪を犯したらそれを告白することをご存じだし、何回もする必要がないこともご存じです。それでいながら私たちは何回も何回も神の前に「ごめんなさい。赦してください」と言い続けるのです。したことはありませんか？すべてにおいてではないかもしれない、でもある罪に関しては何回も神様の前に「ごめんなさい」と言っていないませんか？我々はそれでよしとしていませんか？何度も告白をしないと赦されないと聖書は教えていません。ではなぜ私たちが繰り返すのかというと、恐らく赦しを求めていながら赦されたという確信が持てない、本当に赦されたのか不安があるからです。もしそうだとしたらそれは神様の約束を信じていないのです。

今日最初に見てきたように「あなたの罪が赦された」と。あなたの罪はイエス様を信じた時にそれ以前の罪だけでなく、それ以降のすべての罪も赦されたのです。それなのになぜあなたは告白を継続しないと赦されないと思っているのですか？もし我々が告白をしないで死んでしまったら、救いを失って地獄に行くのですか？行かないでしょう？なぜなら神の救いは永遠だからです。ヨハネが私たちに教えてくれたことは、クリスチャンは神の前に罪を犯せばすぐにそれを告白してそれを精算する。イエス様があの最後の晩餐で足を洗われた時に、ペテロが「私の全身を洗ってください。」と言いました。全身をきよめられた者はその必要はないと言われた。必要なのは足を洗うことだけだと。その当時はみな靴下を履いていませんし、道も舗装されていませんから土埃が立って足が汚れるのです、だから毎日の生活における罪を神の前に告白するのです。でもそれはそうしないと私たちが永遠の地獄に行ってしまうからではない。我々が罪を告白するのは神を愛しているからです。神の前に罪を告白するのは、クリスチャンの生き方なのです。神に喜んでいただきたいからです、神様は罪をお喜びにならないから神の前に

罪を告白していこうとするのです。もう完全な赦しは頂いたのです、罪の赦しはもう頂いた。私たちは神を愛するから感謝しているから、赦された者として神がお喜びにならないことを行った時にそれを神の前に告白しているのです。

赦しというのは、神が与えて下さるもの、神だけが与えることのできるものでありながら、自分がそれを納得するかどうかに掛かっていると。その矛盾点に気づきませんか？神が赦して下さるのなら、神が言われることを信じればそれでいいのです。でも問題なのは、神が言われたことを自分が納得するかどうか、納得しなければ自分が納得するようにやろうとするのです。いかに身勝手な信仰であるかにお気づきになりませんか？そんな信仰を神様は私たちに望んでおられないし、そんな信仰を神様はお喜びになることはないのです。

今日私たちは、我々が罪に対する勝利者として生きていくためにできることは神のことばを信じ続けることだということを見ました。神が言われたことを信じるのです。あなたがどう思うかはどうでもいいのです。「神がこう言われた。私はそれを信じる」、その信仰を神様はお喜びになるのです。そしてその信仰こそがサタンの様々な誘惑に勝利する術です。サタンは神のことばを疑うように、神のことばを信じないようにと働き続けています、だからこそ我々は神のことばに立ち「神がこう言われている」、そうやって生きるのです。それが罪の力に勝利する歩み方の一つです。

どうか皆さん信仰者として神様のことばにしっかり立って歩んでください。あなたの罪は赦されたのです。信仰者であるならば、神によって救いに与ったクリスチャンであるならば赦されたのです。それを喜びながら感謝しながら、この主にどう私の感謝を表していくのか、それを考えながらしっかりと主のみことばに従うことです。それが主が望んでおられること、主がお喜びになる歩みだということをしっかり心に刻んでください。